

本時のねらい

- ・「初め」「中」「終わり」の役割について理解し、自分なりに分けることができる。
- ・「初め」「中」「終わり」の分け方について、言葉で説明することができる。

本時における 1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・段落を「初め」「中」「終わり」に分ける際、表の縦棒を動かすことで、思考を整理しながら、表を完成させることができる。
- ・「初め」「中」「終わり」を自分で考え分けた後、コピーしてペア活動を行うことで、自分の考えの変容を見とることができる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレット
- ・スクリーン

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○「こまを楽しむ」に出会う。 ・教員が範読する。 ・本文を八つの段落に分け、全体で確認する。 	
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ○八段落を三つのグループに分ける。(思考ツール：表) 【写真1】 ・全体で三つのグループの分け方を共有する。 ・分けたグループに「初め」「中」「終わり」の言葉を入れる。 ○ペアで分け方の理由を伝え合う。 【写真2】 ・「なぜ、そのように分けたのか」を中心に相手に伝え、より納得する方を選ぶ。 ・分けた理由をキーワードで記入する。 ○全体で表を確認し、一つのキーワードにまとめる。 【写真3】 ・どの理由が納得するか、考えながらまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表に分割線を入れて、グループ分けをする際、教科書で確かめながら表の分割線の位置を自由に動かして、考えを整理することができる。 ・資料置き場に「初め」「中」「終わり」のヒントカードを置いておくことで、必要に応じて活用する。 ・発表ノートをコピーすることで、自分の考えとペア学習後での考えの変容を見とることができる。 ・全体で共有する際に、ペアでよりよい方を示すことで、数も制限され、焦点化される。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○表の分け方や理由を再度考え直す。 ○ノートにふり返りを書く。 ・分かったことや、今後、説明文をどのように読めばいいのか、考えたことを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体共有したスクリーンを見返すことで分け方やその理由を他と比較しながら再考することが出来る。

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1 思考ツール（表）を活用し、「初め」「中」「終わり」に分けている場面



写真2 「初め」「中」「終わり」には、どんな内容が書かれているかをキーワードで入力している場面

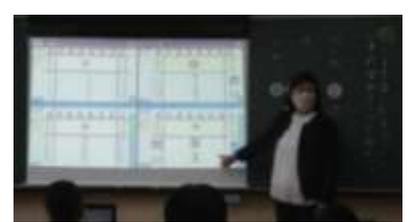


写真3 ペアの考えを全体で共有している場面

児童生徒の反応や変容

「初め」「中」「終わり」に分ける際、思考ツールを活用することで、「こうかな、どうかな。」と何度も試すことができ、思考の整理につながったと思う。また、発表ノートのコピーして使用することで、児童自身も考えの変化を実感し、振り返ることができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

児童の変容を見取りたい場合、自分の考えをまとめた発表ノートのコピーしてからペア学習等を行うことで、児童自身もペア学習前との自分の考えの変化が分かる。さらにその活動により内容がより深まることで、児童の意欲向上につながる。また、教員も児童の変容を評価に活かすことができる。